アイスホッケー
関東大学リーグ戦

4位、来季に期待

▲ 健闘したアイスホッケー

関東大学アイスホッケーリーグ戦が9月11日から12月4日まで、西東京市のダイドードリンコアイスアリーナほかで行われた。ディビジョンIのグループBに所属する専大は5勝5敗で、前年より順位を1つ上げ、4位に終わった。

金子大主将（経済4・日光明峰高）は「今季は体力面だけでなく、精神面の強化も試みた。応援や、支えてくれている人たちのおかげで頑張ることができた」と話した。

最終戦では次年度を見据えた新布陣もテスト。金子主将は「リーグ戦は長期間のため、途中で調子を崩すチームも多い。あきらめずに全体で踏ん張り、試合に臨んでほしい」と後輩たちにアドバイスを送った。

（横谷　美遥・ネット情報2＝写真も）

ウインタースポーツ特集

スピードスケート・全日本選手権

松尾　総合8位に

▶ 地元の大会で好成績をあげた松尾＝提供・川口ひろし氏

12月17、18の両日、青森県の八戸市長根公園スケートリンクで全日本選手権が行われ、松尾駿（経営4・八戸西高）が総合8位となった。

得意の5000㍍で6位、1万㍍で4位となり、順位を上げた松尾は「地元での大会で、仲間の応援のおかげで良い成績を残すことができた」と話した。

また、学生最後の大会である日本学生氷上競技選手権（1月6～9日、北海道苫小牧市、結果は2月号に掲載）に向け、「全力を出し切って終えたい」と気合を見せた。

全日本学生スプリント選手権

大塚が総合4位

12月8、9の両日、群馬県総合スポーツセンター伊香保リンクで行われた全日本学生スピードスケートスプリント選手権では、大塚樹（経済3・吉田高）が2日目に500㍍で2位、1000㍍で3位と追い上げ、総合4位。

「初日はあまり調子が良くなかったが、2日目の500㍍で自己ベスト（36秒28）を出せてから波に乗って滑ることができた。総合では2、3位の選手と僅差だったので、悔いの残る結果だった」と語った。

（横谷）

スキー・全日本学生チャンピオン大会

男子

栗山が2種目で入賞

スキーシーズンが到来し、各地で大会が始まっている。12月21日から24日まで、北海道の音威子府村で行われた全日本学生チャンピオンスキー大会（クロスカントリー）では、栗山雄大（経営3・白馬高）が男子スプリント1・2キロで4位、同10キロクラシカルで5位と2種目で入賞した。「思ったよりも、本番では良い滑りができた」と振り返り、今シーズンの目標として全日本学生選手権（インカレ）の優勝を掲げた。

クロスカントリー、アルペン、ジャンプの3競技に分かれて活動しているスキー部だが、2月のインカレは団体として結果が残せる唯一の大会。清水香帆（法4・飯山南高）や渡邉久瑠美（経済4・新発田商高）ら女子アルペン勢、市川若奈（経営1・飯山高）ら女子クロスカントリー勢も好調で、活躍が期待される。

（林　裕太・法1）

専大初のボクシング世界王者・山中慎介さん（平17商）に聞く

夢や目標を持って努力を

11月6日、ボクシング部OBの山中慎介さん（平17商＝帝拳ジム）がWBCバンタム級王座決定戦で勝利し、専大初のボクシング世界王者が誕生した。

この試合は2日前に急きょタイトルマッチとして開催されることになり、「タイトルマッチになるとは思わなくて、分かったときは興奮を抑えるのが大変だった」と話す山中さん。しかし、試合については「ある程度自分のボクシングをやることができて、自分のペースで試合を進められた」と振り返り、落ち着いて試合に臨んでいた。

初めてチャンピオンベルトを手にしたときには「ずっとベルトを追いかけてきたので、手に入れたときは『本当になったのかな』と実感がまったくわかなかった」。

今後の目標については「強い選手と戦って、皆さんに知ってもらえるように頑張りたい」と語った。

また、専大生に向けて「夢や目標を持ち、それに向かってどんどん努力すれば、結果はついてくる」とエールを送った。

（青木　宏平・経営2）

山中さんの偉業を祝福

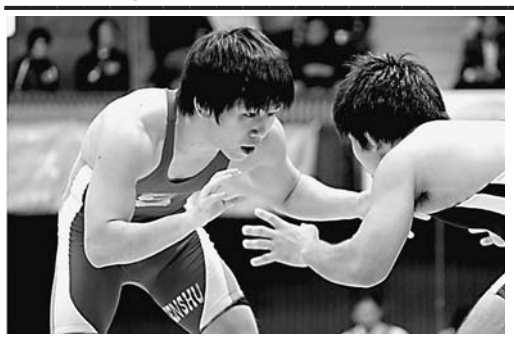
12月8日、山中さんが母校に凱旋した。

チャンピオンベルトを手土産に、久しぶりに生田キャンパスを訪れた山中さんは日髙義博理事長・学長らと歓談。その後、神田キャンパスで開かれたボクシング部OB会主催の祝賀会にも出席。この会には、同部の後輩で、ロンドン五輪出場を目指す川内将嗣さん（平20商）や、大相撲の大道関（平17経営）も駆けつけ、多くの人が山中さんの偉業を祝福した＝1面に関連記事。

レスリング・全日本選手権

フリー60kg級

荻原がベスト8


▲ 社会人相手に善戦した荻原

天皇杯全日本レスリング選手権が12月21日から23日まで、代々木第2体育館で行われ、フリースタイル60kg級で荻原健汰（経営3・沼津城北高）がベスト8となった。

初戦は松本（長崎県協会）にリードを許さない試合運び。2回戦で今大会優勝者の前田（ニューギン）には、自分のレスリングをさせてもらえず敗退した。「55kg級から階級を変えて間がなかったが、出場できてうれしかった。積極的なプレーができなかったのが残念。6月の全日本選抜選手権に向けてしっかり練習をやりたい」と振り返った。

鈴木聖二コーチは「今大会は組み合わせが悪く、もったいない部分もあった。みんな一生懸命練習を重ね、実力もあるのでさらに来年度に向けて気を引き締めていきたい」と話した。

（葛西　千瑛・文1＝写真も）

卓球・関東学生チームカップ

男子Aチームが優勝

関東学生卓球チームカップ（男子＝12月15、16日、女子＝12月4、16日）が駒沢屋内球技場ほかで行われた。男子Aチームが決勝で明治大Aチームを下し、専大勢として3年ぶり2回目となる優勝を果たした。

男子はA～Eの5チームが出場。唯一勝ち上がったAチームは準々決勝で中央大Aチームをフルセットの末破ると、続く準決勝は筑波大Aチームに3―1、決勝は明治大Aチームに3―0で勝利した。

女子はA・Bの2チームが出場。Aチームが準決勝に進出したが、今大会を制した東京富士大Bチームにストレート負けし、3位に終わった。

なお、会長杯争奪卓球大会（12月8、9日、駒沢屋内球技場）では、Aブロックの女子ダブルスで、関向優（文3・専大北上高）・尾留川琴波（商2・慶誠高）組が準決勝に進出。2―3で敗れたものの、ベスト4入りした。

（菅原　明彩・商1）

テニス・関東大学対抗選手権

女子　2年ぶりV

関東大学対抗テニス選手権が11月26日から12月18日まで、東京の亜大テニスコートほかで行われ、女子が2年ぶりの優勝を決めた。

1、2回戦を順調に勝ち進み、続く亜大との準決勝で3―2と接戦を制し、決勝では東洋学園大を相手に5―0と、圧倒的な強さでタイトルを奪還した。

新主将の難波沙樹子（文3・新宿山吹高）は「4年次生の引退後、団体戦を中心に試合経験を積んできた。その結果、優勝を手にすることができ、自信になった」と手応えを感じていた。（川村　真樹・人間科学2＝写真も）

▲ シングルスでの西井綾（人間科学2・名古屋国際高）

相撲・全日本選手権

蒲田主将が2年連続決勝T進出

東京の両国国技館で、全日本相撲選手権が12月4日に開催された。今年度最強のアマチュアを決定するこの大会に、専大からは蒲田勝太主将（商4・専大松戸高）が出場し、2年連続となる決勝トーナメント進出を果たした。

予選は2勝1敗で決勝トーナメントに進出。しかし、1回戦で再び予選で敗れた今大会準優勝の丹野（秋田県体育協会）と対戦し敗北。ベスト32に終わった。

蒲田重勝監督は「実力はあるが、相手が強かった。連続出場、決勝トーナメント進出は、ほめてやらなければ」と語った。また、今大会で引退の蒲田主将は、後輩に「目標を持って、それに向かって取り組んでいってほしい」とエールを送った。

（川村）

第88回箱根駅伝

安島、大橋が出場

1月2、3の両日に行われた第88回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）に、専大から関東学連選抜として安島慎吾（経営4・勿来工高）、大橋秀星（文3・専大松戸高）が出場した。

大橋は4区を走り、区間記録56分31秒の区間10位。また、当日のエントリー変更で出場となった安島は7区を快走。1時間4分49秒の区間8位でタスキをつないだ。なお、関東学連選抜は往路10位、復路20位で総合17位だった。

（山内　夏穂・人間科学2）

ゴルフ・ファルドシリーズアジア日本大会

女子　荒井が連覇

12月26、27の両日、ファルドシリーズアジア日本大会（男子＝茨城県・静ヒルズカントリークラブ、女子＝茨城県・宍戸ヒルズカントリークラブ）が開催された。女子17～21歳の部で荒井舞（経営2・沖学園高）が昨年に続き連覇を達成。3月に中国で行われるグランドファイナルへの切符を手にした。

同男子の部19～21歳では梶原英明（経済3・大分高）がトップ争いを繰り広げたものの、2日目にスコアを崩し2位に終わった。

（溝井　智大・文2）

ONE DAY TEAMMATE 2011

バドミントン部が中学生を指導

体育会の地域貢献活動「ONE DAY TEAMMATE 2011」の一環として12月23日、生田キャンパスでバドミントン教室が行われた。川崎地区の約70人の中学生が参加し、女子部員たちのハイレベルな練習を体験した。

参加者たちは練習に必死についていきながらも、合間に笑顔を見せるなど、生き生きとした様子だった。また、関東学生新人戦ダブルス優勝の山田真央（文2・埼玉栄高）・平井亜紀（商2・高松商高）組による模擬試合も行われ、中学生たちはくぎ付けになっていた。

（橋本　里恵・文2＝写真も）